

# サムとリチ

— アメリカの小学校 —



私がカールトン大学で教えることになり、家族をひきつれてミネソタ州ノースフィールドについたとき、上の娘のリチは日本の小学校生活を三ヶ月経験したばかりでした。私どもは英語を一言もしゃべらないリチをその地の小学校にいれることにしていました。幸いむこうは新学期が九月からはじまります。どの子もみなABCからはじめるのだから案外うまくいくかもしれないと思いましたが、それでも不安で、何とかうまくいってほしいと祈るような気持ちでした。

近所と同じ大学につとめている宗教学の教授が住んでおられ、リチと同一年のサムという男の子がいたので、二人はいっしょに八百メートルほどはなれた小学校までかようことになりました。最初の登校日、リチをむかえにきたサムは私たちに幼ない英語で、しかし男らしく、自分がリチの

面倒をみるから心配しないでもいいよ、といいのこしてリチの手をとりました。きつとお母さんからリチの面倒をみてあげるようにいわれていたのでしょう。日本なら最初の登校日にはランドセルをせおった子供といっしょに親も学校へ行くのだが、……と思いつながら、仲よく手をつないで出かけていくサムとリチをみて、女房はあやうく涙をこぼすところでした。

ところがその日、リチはニコニコしながら元氣よく帰ってきました。そして「ただいま」というなり、私はアメリカの小学校が好きよというのです。女房がいっしょけんめい何があつたか聞きだそうとするのですけれど、さつぱり要領をえません。あとから担任の先生のミセス・ディックに聞いてわかったのですが、みんなが歌をうたっていたとき、リチは言葉がわからないままにすぐ節をおぼえ、

榎原 胖 夫

「ドレミ」で唱和したのだそうです。それに気付いた先生が、リチをピアノの前につれていき、ひいてごらんといつたらしいのです。リチはみんなの前でピアノをひくことで一気に自信をもったというわけです。その話をきいて私は先生に深く感謝すると同時に、リチはすばらしい先生をもつて幸福だと思いました。ディック先生はまたリチが算数をよくすることにすぐ気付いたということです。そして言葉もわからないまま、自信をもつたりリチは喜びいさんで学校へ行くようになりました。

おどろいたのは最初の登校日リチが帰るとすぐ男の子が遊びにきたことです。トムという名のその子はサムより体が大きく、活発な子供らしい子供でした。言葉が全然わからないのに、二人はおもてへでておっかけっこをして遊んでいました。女房が見ているとトムは腕をまくつて力こぶをみせ、リチにしきりにさわってみるといついていたそうです。さすがアメリカの男の子はちがうなといいながら女房は笑っていました。自分の小さい娘が男の子にもてるというのは母親にとって満足すべきことなのでしょう。

一週間ほどたつてからPTAの会合がありました。先生から、教育は私たちの責任であり、私たちはそのために給料をもらっているのだから、全部まかしておいてほしい。家で子供に何も教えないでくれという注意をうけました。そういえば、勉強道具は全部学校においてあり、一切もつて帰ってくるということはありませんでした。学業の評価

は高学年になるとはじまりますが、点数はなく、勉学の意欲があるかどうか、自己の能力をせい一ぱい發揮しているかどうかなどという評価方法です。低学年はたえず父兄と相談しているから、評価があれば口頭でつたえられるとのことでした。

まもなく小学校で授業の手だすけをするボランティアの募集がありました。女房はアメリカの小学校を知る絶好の機会でもある（本心は、リチがどうしているのか知りたいという気持もあつてのことと思いますが）と喜んで募集に応じ、週二回小学校へ行くことになりました。

女房が小学校へ行つてまぶびっくりしたのは、机が先生にむかつてきちんと並んでいないということでした。子供たちはあつちひとかたまり、こつちひとかたまりとちらはばつていて、てんでにちがうことをしているようにみえました。そして先生に手をあげて許可をえないでも、好きなきときにトイレにいきます。一見何の秩序も礼儀もないようにみえるなかで、子供たちが何を学んでいるかを知るには、二、三日かかりました。そして驚きの二、三日がすぎ、女房が小学校の一部になるにつれて、この小学校の充実した教育内容が次第に明らかになっていきました。

各学年に二十三名ぐらいのクラスが三つあつたのですが、国語（つまり英語）の時間ですと、七十五名全員がクラスわけとは別の三つのグループにわかれます。

Aはまだ字や正確な発音を学ぶ気もなく必要も感じてい

ないもの

Bは英語を学ぼうとする気のあるもの

Cは多少とも英語ができるもの

というぐあいです。そしてそれぞれのグループはまた三つのサブ・グループにわかれます。ですからひとつのサブ・グループは八名ほどになります。そして三名の先生と三名の授業補助者がそれにつきます。子供たちはサブ・グループで先生や仲間といっしょに遊びながら英語を学ぶ意欲をそだてるのです。遊びにはいろいろなものがありました。

A B Cを書いた大きなつみ木で何かをつくったり、床に書いたA B Cの上でとびけりをしたり、画を描いたり、絵本をよんでもらったりというぐあいです。意欲のない子にむりやり字を覚えさせようとしたり、できない子をひっぱりあげようという姿勢はまったくありませんでした。

しかし一方、意欲のある子はそれを大事にそだて、どんな先まで行かせようとしていました。

市販のペーパー・テストも使われていました。それは生徒たちの進歩の様子を知るのが主な目的のものでした。そして生徒との個人的接触とテストの結果などから、一、二週間ごとに先生たちがあつまってグループわけを変えていました。

算数についても同じようなクラスわけがありました。

観察していると先生たちの仕事は大変なものでした。カリキュラムをつくり、どのような遊びをするかきめ、その

準備をし、授業補助者たちを監督し、たえず他の先生と相談をし、そして一人一人の生徒について簡単な観察日記をつけていました。

リチの英語はみるみる上達しはじめました。リチにとって英語を学ぶことは絶対に必要でした。学ぶ意欲は大いにありました。最初のころはよく、「……は英語で何というの」などと聞いていましたが、三ヶ月もすると「ママの発音はおかしいよ」と母親の英語を批判しはじめました。クラスもAの一番下から出発して五ヶ月後にはCの中にまでずみましました。先生たちもびつくりして、リチを教えるのは、新しい、すばらしい経験でしたといってくれました。

サムは毎朝リチをむかえにきました。そして二人は手をつないだり、はなれたりしながら仲良く学校へ行きましました。そして学校から帰ってきてからもよく遊びました。しかし秋も深まって落葉で芝生がうまるころには、トムやビルやクリスやローラその他たくさんの子が遊びにくるようになり、朝以外にサムの姿をみるのが少なくなりましました。サムはどうしたのと聞くと、あの人は「あんまり面白くないの」ということでした。体も少さく活発さもたりないサムは、リチの新しい友達たちとはあわなかつたらしいのです。

学校でもリチは人気の的になってきたらしく、給食のとき、だれがリチのとなりにするかでけんかがはじまつたりしました。どうもアメリカ人は子供でも毛色のかわつた

人間に魅力を感じるのかもしれませんが。私たちは別の心配をするようになりました。かの女のおかれた状況が負担になりはしないか、異常人気のなかでいばったり天狗になったりしないかと思ったのです。リチはときどき困った顔をして帰ってくるがありました。トムとサムがどうもリチのことでいがみあいをするらしいのです。そしてサムはけんかをすれば負けるのにきまっていますので、かげでいじわるをするようなのです。男らしくないよといってリチはおこっていました。それでも朝になるとリチはサムと仲よく学校へでかけました。

やがてミネソタに冬がきました。ミネソタの冬はきびしくて有名です。華氏のマイナス二十度以下になることも少なくありませんでした。プラス十度ぐらいであれば、今日は暖いといってよろこんだものです。ときどき雪がふりました。一度にたくさんつもるというのではなくて、一度にふるのはせいぜい三センチか五センチでした。しかし一たんつもった雪はとけることがありません。摂氏0度(華氏三十二度)以上に温度があがることがないからです。雪はまるで砂のように細かくて、さらさらしていました。晴れている日が多かったのですが、外にでると空気にふれる肌は痛く、息がすぐ氷になりました。私どもは外の温度がマイナス十度以下になるとサムとリチを車で送りましたが、そうでない時は、ズキンをかぶり、口にマフラーをし、二重になった長靴をはき、ぶくぶくと着ぶくれした姿で、二

## 同志社大学名誉学位 受領者略歴

江崎玲於奈氏 (名誉文化博士)  
1925年 3月12日生  
1942年 同志社中学 4年修了  
1947年 東京大学理学部物理学科卒業  
神戸工業勤務  
1956年 ソニー株式会社半導体研究室勤務  
1957年 エサキ・ダイオード発見  
1959年 仁科記念賞・朝日賞受賞  
1960年 米国 IBM 中央研究所特別研究員  
1965年 日本学士院賞受賞  
1973年 ノーベル物理学賞受賞  
1974年 文化勲章受章  
現在 IBM Corp. TJワトソン 研究所名誉  
研究員、理学博士、日本学士院会員  
現住所 16 Shady Lane, Chappaqua, N.Y.

## Esther L. Hibbard氏 (名誉文化博士)

1903年 9月23日生  
1924年 マウントホリヨーク大学英文学部卒業  
1925年 ウィスコンシン大学英文学専攻卒業  
1929年 アメリカンボード宣教師として来日  
1930年 同志社女子専門学校教授  
1941年 帰米  
1942年 ミシガン大学日本語講座主任および  
ノースウェスタン大学日本語講座指  
導主任  
1946年 同志社女子専門学校教授に復職  
1949年 同志社女子大学教授  
1949年 同志社女子大学長  
1950年  
1967年 同志社女子大学大学院文学研究科教授  
1968年 定年退職 同志社女子大学名誉教授  
1968年 東北学院大学教授  
1973年 勲3等瑞宝章受章 帰米  
現在 同志社女子大学名誉教授 Ph.D.  
現住所 Pilgrims Place 586 W. 8th  
Street Claremont, California

人は歩いて学校へ行きました。

そんなある日、とうとうトムとサムが学校からのかえり道で大げんかをやらかしたのです。トムがリチといっしょに帰ろうとしているのをみて、サムが雪の玉をなげつけたのはじまりでした。トムがおこってサムにむかっていくと、サムはありったけの勇気をふりしぼって、「リチはマイ・ガールだ!!」と叫び、トムにむしゃぶりついたのです。友人たちの見守るなかで二人はとつくみあいをししました。もちろんけんかはトムが勝ちました。さいわい雪のなかでしたから、二人ともたいしたけがをしませんでしたが、それでもくみしかれて、口から血をながしたサムは、くやしがつて、泣きました。

その報告を私たちにしたりチに、母親が、「それでリチはどうしたの」ときくと、「サムがかわいそうになって、助けてあげていっしょに帰ってきたの」と答えました。

そのことがあつてからサムはまた放課後遊びにくるようになり、ほかの友達とも仲良くするようになりました。リチは一応サムの女の子ということになつたらしく、トムは男らしく身をひいたとみえて遊びにこなくなりました。私たちはアメリカの子供たちの社会を垣間見たような気がして複雑な気持ちになりました。

四年後私は用があつてカールトンに行きました。この機会にぜひサムに会いたいと思いました。サムの御両親は親戚に不幸があつたとかで居られなかつたのですけれど、うまいぐあいにかれの家の前を通つたとき、サムの姿を見ました。かれはすっかり大きくたくましくなつて、背は私ほどもありました。「リチを覚えているか」ときくと、覚えていゝる」と短かく答えて、てれくさそうに家にはいつてしまいました。のちほど日本へ帰つてからサムのお母さんから手紙をもらいました。不在のおわびと同時に、私たちの住んでいた家は、住人が変わつても、サムにとってはいつまでもリチの家ですと書いてありました。

(大学経済学部教授・交通経済論)

